多世代がいきいき暮らすまちづくり

汐見稔幸@白梅学園大学

1. ちょっとショックだった児童公園事件
   - 騒音公害としての子ども
   - 不審者警戒の雰囲気によるまちの健康さの劣化
   - 点から面へ、拠点からどこにも、の課題の発展

2. バーミンガム体験
   - 散歩したくなるまちづくり
   - 素敵、美しい･･･それがないと出てこない
   - 日本ベンチ同盟へ･･･まちにダベリングできる場を創造する

3。レッジョ・エミリア体験
   - BARの大事さ、カフェがあちこち
   - 議論する市民、その習慣
   - 幼児学校が町コムーネのひな形に・・・職人文化を支える市民
   - 「世界に一つだけ」の街をつくる

4. 多世代が交流し、支え合うまちへ
   - 厨房があることが条件、保育園、コミュニティカフェ・・・
   - お年寄りが集える条件を探る･･･徒歩か車か、食事の要求は、仕事があるかないか・・・
   - 都市農園、クラインガルテンの可能性
   - 小平の職人がワークショップを構えるまちに。斡旋する。呼ぶ。
   - 拠点をモデルとしてつくってみる。ただし・・
   - 健康な拠点、怪しげな拠点、癒される拠点など・・・多様性を担保する
   - やがて地区全体が、みんなで新しい小平づくりのモデルを模索するように
   - 教育要求を整理する。生涯学習社会づくりに小平の教育行政をくみこむ
   - 多様な教え人、子育て世代のたまり場としての学校、社会体育拠点としての学校・・
   - 学社融合へ

などなど